

## 91. 「動」と「静」をもつ庭へ土間 -豊栄の民家再生プロジェクト-

0910920039 波多野 弘悦  
指導教員 市川 尚紀 准教授

### 1. コンセプト

- (1) 土間と庭の関係より、二つを組み合わせた環境を作る。
- (2) 用途や使用する人数によって多目的な場所となるため、土間の空間的機能を残す。
- (3) 庭の機能を空間に入れることで、人間目線での、動（活動する人）と静（観賞する人）の二つのパターンを提案する。

### 2. 制作概要

古民家にあった形体を、現代において、複数の大学生が利用するにあたり、変えなければならない点が出てきた。古い形体として、主に四つの空間から成り立っていた。畳の間が二つ、茶の間兼キッチン、そして、土間である。私たちが再生する古民家において、その空間構成では、必要とする形にあてはまっていないものも多々見られた。その一つとして、台所である。システムキッチンの入った台所では、再生をしていく中で、昼食など作る際に、何人もの人が台所を同時に使う。集合したシステムではなく、それらを分散させることにより、作業の効率の向上をはかった。ゆえに火口を分散させると、それらを置く場所が必要となる。また、作業において、メンバー全員が活動し、休憩できるスペースが必要となった。屋根の修復に関して述べると、材料を用意する場所と、保管する場所が不可欠となり、作業の合間には、みんなで休憩し、活動のためのミーティングができる場が重要となる。そこで私は、『土間』の要素をのこしたまま、そこで、人が集い休憩もできる庭の制作を提案した。作業によって、求められる空間が変わるため、その時々で、人が働くことができ、静かに休憩できる、二つを重ね持つ「庭」を造ることで、多用途に対応できる空間と、そこに必要となるであろう、インテリアの制作を行った。

#### 2.1 制作空間

古民家において、玄関横の和室空間は、古民家再生活動時に、板張りの状態で物を置いたり、人が休憩したりする空間として使われていた。しかし、土間からのアクセス方法として、靴を脱ぎ段差をあげるという段階が作業において困難をまねいていた。この使われ方として、この空間の利用方法が土間の利することで、問題解決につながると考え、和室をとりはらって、土間空間とした。



写真 1 制作計画空間

### 2.2 使用材料

- (1) 石：古民家土壁内より出た石
- (2) 小石：制作計画空間の地面の土を篩いにかけて残った残物
- (3) 角材：床下空間の目隠し作成のための杭に必要なもの
- (4) 合板：床下空間の目隠しに使用するもの
- (5) 砂利：土間空間に敷き詰めるもの
- (6) 土管：庭内に配置する照明、及び植物のプランター代わりに使用するもの
- (7) セメント：目隠しの杭の基礎、及び石の固定に使用するもの
- (8) 純土：土間表面の土を篩にかけて粒子の小さくなったもの
- (9) 建具：使わなくなった古い建具を再利用して照明をつくる
- (10) 柱：廃材となった柱を足にしてイスを作成するため

(1,2,6,8,9, 10) 再利用 (3,4,5,7,) 新規購入

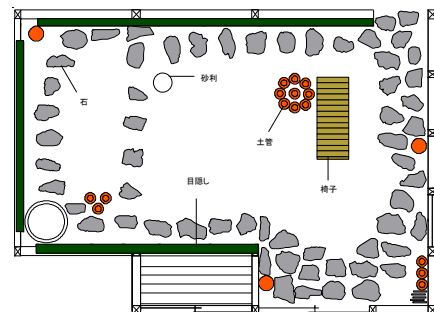


図 1 材料配置図

Movements and the breaks in the garden.  
-The private house reproduction project of Toyosaka.

HATANO Kouetu

環境設計研究室

### 2.3 工程

この制作は、おおきくわけて 5 つの工程にわけて作業を行った。

#### (1) 土の改良

民家の玄関空間には、コンクリートが打設されていた。そのコンクリートを撤去し、でてきた土の表面を削って石・砂利・土・粘土に分ける作業をおこなった。

#### (2) 目隠し

玄関と和室空間を 1 つにしたことで、隣接する板間空間との間にレベル差が生じた。そのため、床下から害虫や動物の新入を防ぐとともに、床下からの空気を通す必要があった。そのためそのレベル差を利用できる開閉式の目隠し(壁)を造った。

#### (3) 踏み石

このプランにおいて、多様な使い方をする民家再生プロジェクトに対応できる場所を考えた結果、土間の良さや日本の庭の良さを融合にたどりついたため、土間空間に庭石を配置した。

#### (4) 照明

土間空間に庭を取り入れたことによって、一般的に言われる庭と異なり、屋根のある庭になった。そこで、その庭に光をあて、使う人達が新たな見るといふ観点で空間を楽しんでもらうために、廃材となった建具を利用した照明を、元玄関空間と元和室空間の広さに合わせて、2 つ作成した。

#### (5) 椅子

土間を囲む空間には、3 つの隣接する板間がある。それを利用して、ミーティングや食事、休憩スペースとなるように、土間を囲むもう一つのツールが欲しかった。そのため、板間再張り工事の際にでた柱材を使って椅子を作成した。椅子は約 3 人がけの広さと長さをもたせ、掛けるだけでなく物を展示したりできるツールとしても使えるようにした。



写真 2 目隠し



写真 3 椅子

### 2.4 動線計画

制作した土間には他の空間と外を繋ぐ動線が必要である。そのため、土間空間の機能を考え、他の空間へのアプローチができるように小石を設けた。

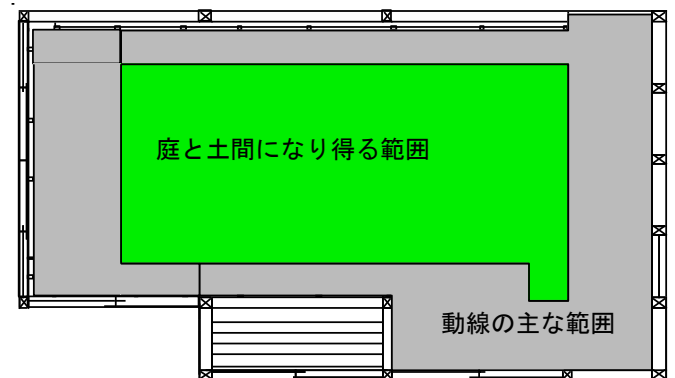


図 2 動線

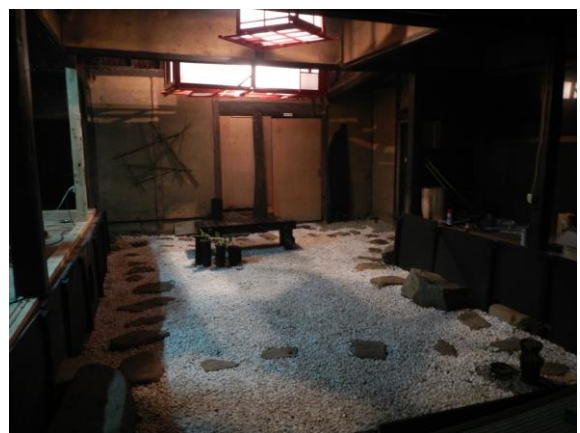


写真 4 完成写真

### 3. まとめ

土間と庭の二つの組み合わせができた空間ができ、多目的に対応できる空間をつくることができました。活動する人にも観賞する人にも喜んでいただける空間を制作できました。